

約半数が「会社は把握していない」と回答

社用車ドライバーの ヒヤリハット実態調査2018



NTT
docomo

ドコモ・システムズ株式会社

はじめに／調査概要

営業回りや送迎、修理点検、搬送など、社用車を使用する業種は多岐にわたります。車の運転は、事故につながる危険性と常に隣り合わせ。万が一業務中に事故を起こしてしまうと、ドライバー本人はもちろん、企業に与えるダメージも決して小さくありません。

そのような中、業務で車を運転するドライバーは、業務中の運転でヒヤリハット(※)をどれくらい感じているのでしょうか。また、どのような状況下でヒヤリハットを感じているのでしょうか。

本書では、業務で社用車を運転するドライバーの運転状況をヒヤリハットの観点から明らかにしつつ、ドライバーの運転技術を向上させ、社用車の事故を未然に防ぐためにはどうしたらよいかを考察します。

多くのドライバーを抱える企業の、安全運転指導の一助になれば幸いです。

(※)ヒヤリハットとは、大きな事故につながらなくても、場合によっては事故になったかもしれないさまざまな出来事を指します。

調査概要

本書記載の「社用車ドライバーに対するヒヤリハット調査」は以下の要領で実施しました。

調査の目的：社用車のドライバーに対するヒヤリハットの実態把握

調査対象：社用車のドライバー

調査時期：2018年2月

スクリーニング調査：2018年2月7日(水)～9日(金)

本調査：2018年2月9日(金)～10日(土)

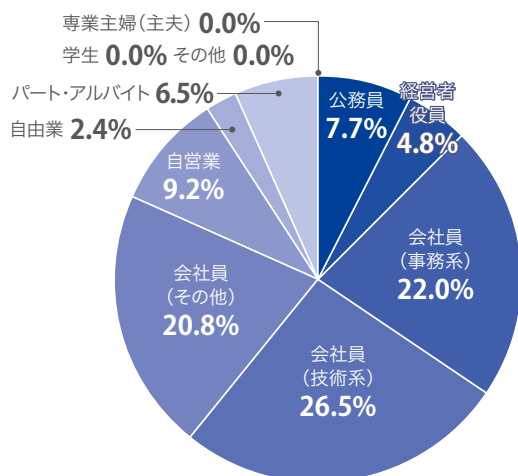
調査方法：インターネットリサーチ

調査実施機関：ドコモ・システムズ株式会社

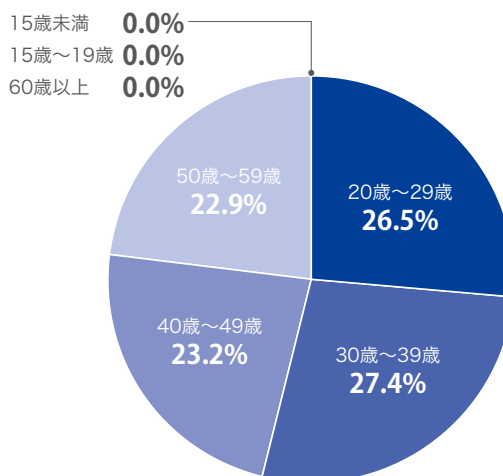
有効回答数：スクリーニング調査 4,093 本調査 336

■回答者のプロフィール(本調査)

職業(n=336)



年齢(n=336)



ヒヤリハットの状況 ① 発生頻度

アンケート対象のドライバーの約半数が、1日1回以上 社用車を運転

今回、アンケート調査の対象となったドライバーが勤務する会社規模(従業員数)および職業は次の通りです。従業員数で最も多かったのは50名未満の企業で34.2%ですが、1,000名以上の企業までまんべんなく回答がそろいました 図1。

業務で車に乗る頻度は「ほとんど毎日乗る」が39.3%。半数以上が1日に1回以上社用車を運転し、約8割のドライバーが1週間に1回以上乗っているという状況です 図2。

図1 勤務している会社の従業員数(n=336)

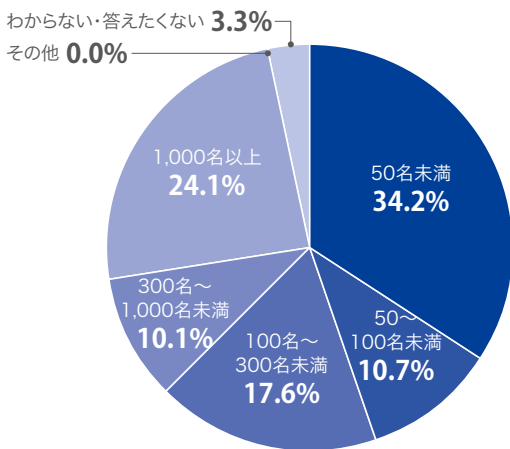
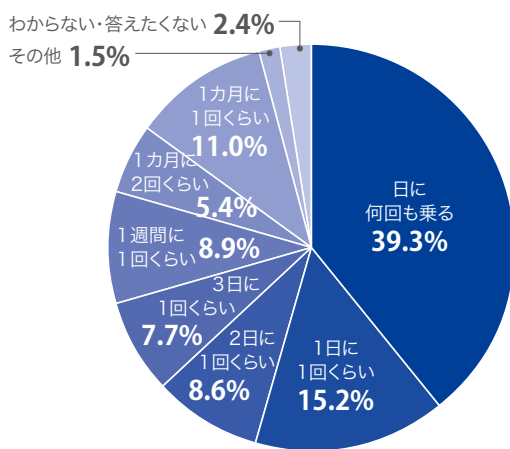


図2 仕事で車に乗る頻度(n=336)



業務中のドライブでヒヤリハットを感じたことのあるドライバーは86%に及び、そのうち、なんと約10人に1人は乗車のたびにヒヤリハットを体験している!

全ドライバーを対象に「運転中にヒヤリハットを感じたことがあるか」を聞いたところ、86.0%が「ある」と回答 図3。その頻度を聞くと、約2割のドライバーが「乗車する2回に1回」以上の頻度でヒヤリハットを感じているという結果となりました。中でも「乗車するたびに」と答えたドライバーは9.7%。ドライバーの10人に1人は、ほぼ毎回、ヒヤリハットを感じていることとなります。乗車する10回に1回以上と答えた回答数まで合わせると、半数以上のドライバーが、ほぼ日常的に運転中にヒヤリハットを体験しているという実態が明らかになりました 図4。

図3 運転中にヒヤリハットを感じたことがありますか?(n=336)

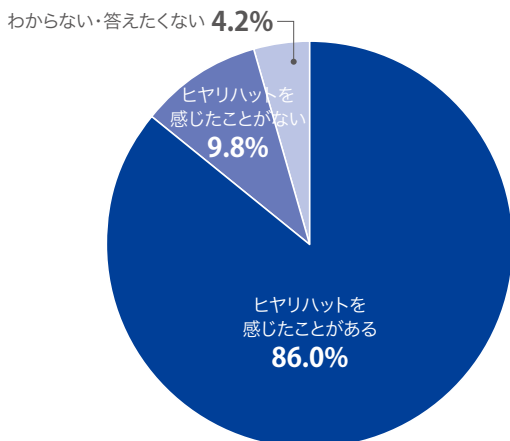


図4 ヒヤリハットを感じる頻度はどのくらいですか? (n=289)

